2015.7 ／ No.976

Focus Vol.30

長洲町でキラリ輝く人たち

山口　友一（ともかず）さん（葛輪区）

陶芸家（小代焼一先窯）

5月26日から31日の6日間、熊本県伝統工芸館で作陶展が行われた。個展を開いたのは、小代焼一先窯の山口友一さん。

「初めての個展で、不安はあったのですが、手に取って、触って、気に入っていただけたことで、気持ちが通じたような手ごたえを感じました」と振り返る。

小代焼は、小岱山特産の小代粘土を原料とした、古くからの技術・技法によって作られる焼き物で、平成15年には国の伝統工芸品に指定された。山口さんは、父・耕三さんの開いた一先窯の後継者として作品作りに精を出している。

彼の作る小代焼は、青や白を基調とした小代焼とは違い、黒っぽくゴツゴツとした焼き肌で、荒々しさを表現した作風が特徴だ。

山口さんは、有田工業高校セラミック科で陶芸について学んだが、その後、別の仕事に就き、一度陶芸から離れた。

「自分は自分のものづくりがしたいと思って、テレビ関係で編集などの仕事を行っていました。何か作品をつくるという観点では、陶芸と似たようなものだと思っていましたが、実際に続けてみると全然違いましたね。やはり、仕事をしていくなかで、『自分自身が出せるものづくり』がやりたい、という思いが日に日に強くなっていきました」。

23歳で仕事をやめると、再び陶芸家への道を歩み始めた。しかし、陶芸について勉強していたのは高校時代。「やはり感覚というのは、離れていると無くなっていました」。

山口さんは天草市にある窯元での修行を経て、昨年4月に長洲町に帰郷。若い今だからできるという力強い作品に取り組んでいる。

「将来的にはシンプルな小代焼を作っていけたら」と山口さん。理想は、すっきりとした形の中に、土の持つ荒々しさを内包したような作風を作ること。

「今後は県外での活動や出展もしていきたいですね。数ある焼き物の中で小代焼の良さを多くの人に知ってもらえたらな、と思います」とはにかむ。

山口さんの力強く荒々しい作品は、伝統受け継ぎつつ、小代焼に新たな力を生み出している。

発行／熊本県長洲町　編集／まちづくり課
URL http://www.town.nagasu.lg.jp/
〒869-0198 熊本県玉名郡長洲町大字長洲2766
☎0968（78）3111
■印刷／株式会社 有明印刷
※この広報紙は地域環境にやさしい植物油型インキを使用しています。

UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。